

1. チェックリストの開発

1.1. 社会的背景

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受けて、パンデミックの終息を目指し、各国でワクチン接種が進められている。日本では、2021年2月に医療従事者への接種が開始されてから接種対象が広がり、高齢者や基礎疾患を有する人、一般の人々への接種が順次行われるようになった。

この研究では、東北六県の地方自治体のホームページで、新型コロナ・ワクチンの1回目・2回目接種に関してどのような情報が提供されたかを実態把握するとともに、ワクチン接種に関する地域住民の自律的な意思決定の実現に寄与するものだったかという観点から情報の質を評価した。

評価には、国内外の機関の実務で活用されており、行動経済学やナッジを含む行動科学の知見に基づき考案された既存のフレームワークを参考にしながら、二つのチェックリスト「EASTY (イースティ)」「19歳の考える19の項目」を独自作成して使用した。行動経済学は人間の意思決定の特性を整理する学問で、ナッジはその特性に基づいて個人と社会の両方にとって理想的な行動の実行を促すためのコミュニケーションの工夫であり、現状のワクチン接種推進施策を補強する役割を果たすものと考えられる。既存のフレームワークは、ワクチン接種以外の事例を含む多様な事例での活用が想定されているとともにホームページの評価に特化したものではないことから、我々は独自のチェックリストを作成することにした。また、チェックリストには若年層の特徴に配慮する項目を設けた。

評価は、2021年10月-11月に実施した。この時期は若年層を含めて一般向けの1回目・2回目接種の最終局面の時期に相当しており、ホームページの掲載情報が自治体それぞれでより選別され、洗練されたものになっていたと考えられる。

次節より、各チェックリストの詳細を解説する。

1.2. チェックリストの説明

1.2.1. 「EASTY (イースティ)」

・概要

東北六県に 227 ある地方自治体が、ホームページ上で新型コロナ・ワクチンの接種に関する情報提供をどのように行っているかを評価するために、我々はまず「EASTY (イースティ)」というチェックリストを作成した。このチェックリストは、英国の Behavioural Insights Team (以下 BIT) (2014) が考案した「EAST® (イースト)」というフレームワークを参考にしながら作成したものである。チェックリストの名前は、我々が新しく付け加えた評価項目である「Young」の頭文字 Y を繋げて、「EASTY」とした。

・EAST®とは

EAST®とは、BIT が、行動経済学をはじめとする行動科学の様々な研究成果に基づいて作成したもので、より望ましい行動を人々に促す政策を検討するためのフレームワークである。EAST®の活用例として、BIT が行った初期設定を切り替える介入をした事例を挙げる。BIT の研究結果 (Blog 29th May 2020 ‘Double nudge’ encourages employers to offer flexibility, in turn boosting job application rates) によると、女性は出産などの理由で男性よりもアルバイトに移る可能性が高く、新しい外部の役割に応募できなかつたり、既存の仕事で昇進したりできず、パートタイムに応募する人が少ないことが分かっている。そこで BIT はチューリッヒ保険と連携し、パートタイムの仕事を宣伝するために求人広告の見出しにパートタイムの選択肢を記載したり、広告文の一番上にアルバイトの選択肢を記載したりするといった初期設定を工夫する介入をした結果、募集が殺到したという。

EAST®は「Easy (簡単に)」、「Attractive (印象的に)」、「Social (社会的に)」、「Timely (タイミングの重要性)」の 4 つの項目から構成されており、それぞれの頭文字を繋げたものである。それぞれの項目を簡単に紹介すると、Easy は容易なものになっているかどうか、Attractive は魅力的なものになっているか、Social は人々が他の人との比較を気にしたり、多数派の行動に従ったりするような特性を利用出来ているか、Timely は伝えるタイミング次第でより望ましい行動をとることが出来ているかをチェックする。

・YBiT 版 EAST の紹介

独自チェックリストの「EASTY」を作成するにあたり、横浜市行動デザインチーム (Yokohama Behavioral insights and Design Team, 以下 YBiT) が日本語訳するとともに YBiT 版として改良した EAST を参考にした。YBiT とは 2019 年 2 月に設立された組織で、

横浜市有志職員と外部アドバイザーから構成されている。以下の説明は、YBiT 作成の資料（2019a, b, 2021）や大竹（2019）に基づいて執筆している。

YBiT 版 EAST は、以下のように、4つの大項目と 11 個の小項目からなっている。

Easy

E-1	デフォルト機能の活用 — 行動を起こしやすい、デフォルト状態になっているか
E-2	面倒な要因の減少 — 行動に必要な労力を極力減らしているか
E-3	メッセージの単純化 — 動作指示は、単純で明確か

1 つ目の「Easy（簡単に）」は、何事においても単純かつ具体的になっているかどうかをチェックする項目である。人々は無駄な労力を使ったり、理解しづらかったりすることで望ましい行動が出来ないことがよくある。Easy は、これら障壁をできるだけ取り払うことで、望ましい行動を促すことを目的としている。Easy には 3 つの小項目があり、E-1「デフォルト機能の活用」、E-2「面倒な要因の減少」、E-3「メッセージの単純化」が設けられている。デフォルトとは初期設定のことであり、前ページの BIT の例のように、我々は初期設定のままに従う傾向を持っている。

Attractive

A-1	関心をひく — デザイン良く、利益・コストを際立て、感情・人間関係に訴えているか
A-2	インセンティブ設計 — 何らかのインセンティブを検討したか（金銭、心理、目標等）

2 つ目の「Attractive（印象的に）」は、日々忙しい生活を送っている人々の注意や関心を惹きつけられるものになっているかどうかをチェックする項目である。人々は毎日多くの情報に接するため、行政の働きかけを見落とししたり、気づいていても望ましい行動だと認識できなかったりする場合がある。Attractive では、注意を惹くことで望ましい行動だと認識させることを目的としている。Attractive には 2 つの小項目があり、A-1「関心をひく」、A-2「インセンティブ設計」が設けられている。インセンティブとは動機や誘因といった意味である。インセンティブへの人々の反応は、行動経済学に基づくことで予測可能になる。

Social

S-1	社会規範の提示 —社会的規範（価値観、行動、期待等）に訴えかけているか
S-2	ネットワークの力の活用 —個人だけでなく、ネットワークへの介入も検討したか
S-3	周囲へ公言させる —公言できるような仕組みを検討したか

3つ目の「Social（社会的に）」は、周囲から影響されやすい人々の特性をうまく利用しているかどうかをチェックする項目である。人々には周囲の行動を見て自分自身の選択をする傾向があり、他の人の行動につられて自分も同じような行動をとりたいと思うことがよくある。また、周囲へ宣言することがコミットメント（約束）になり、目標達成を後押しすることもある。Socialはこのような特性を利用することで、行動変容を促すことを目的としている。Socialには3つの小項目があり、S-1「社会的規範の提示」、S-2「ネットワークの力の活用」、S-3「周囲へ公言させる」が設けられている。

Timely

T-1	介入のタイミング —ライフイベントや条件・状況が行動に与えるタイミングを検討したか
T-2	現在バイアスを考慮 —すぐに結果の見える費用・便益に影響されやすい習性を考慮したか
T-3	対処方針を事前に計画 —特定のイベントに直面した際の対応方針を計画するよう促したか

4つ目の「Timely（タイミングの重要性）」は、効果的なタイミングで人々に働きかけられているかどうかをチェックする項目である。Timelyは、同じ介入であっても働きかけるタイミング次第で人々の行動しやすさが大きく変わる点に着目しており、タイミングを見計らって介入することで行動変容を促すことを目的としている。Timelyには3つの小項目があり、T-1「介入のタイミング」、T-2「現在バイアスを考慮」、T-3「対処方針を事前に計画」が設けられている。

・独自チェックリスト「EASTY（イースティ）」の作成方針

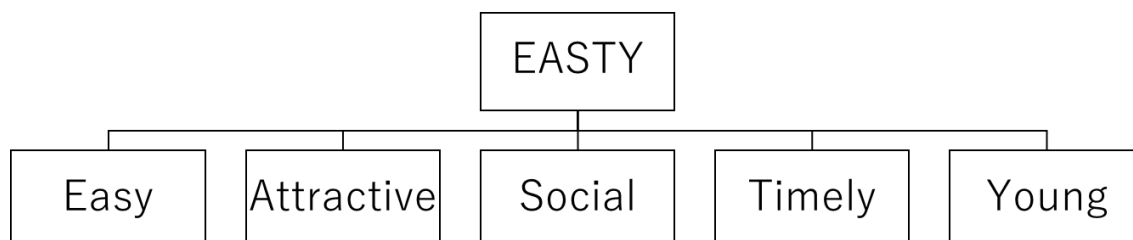
今回、我々が「EASTY」を作成するにあたって、YBiT 版 EAST から大きく変更した点が 3 つある。第一に、EAST の小項目の一部を削除した。第二に、EAST の各小項目に自治体ホームページを評価するための具体的なチェック項目を考案して対応させた。第三に、若者視点のチェック項目として「Young」を付け加えた。

一点目は、YBiT 版 EAST の 11 小項目の内 2 項目を削除した。YBiT 版 EAST は、ワクチン接種専用のフレームワークではないことに加え、ホームページの検討に特化したものでもない。そのため、ワクチン接種に関するホームページの評価には適さないと判断される 2 項目を削除した。一つは、E-1「デフォルト機能の活用」である。ワクチン接種を受けることが前提になっていると、様々な理由でワクチン接種が受けられない人への配慮が欠けてしまう可能性がある。また、デフォルトの工夫をホームページ上に施すことは簡単でないことも理由として挙げられる。例えば、ワクチンを接種するときに必要な接種券は接種対象となる人には自動的に郵送されるが、ホームページではこのようなデフォルトを設定することは難しく、閲覧者からのアクションが必要となる場合が多い。削除したもう一つの項目は、S-3「周囲へ公言させる」である。周囲への公言は、意向と実際の行動の差を埋めたいときには効果的ではあるが、自治体のホームページに公言する場を設けるのは困難である。例えば、SNS 上でワクチン接種を公言することはできるが、地方自治体のホームページ上で公言することは想像しづらい。

二点目は、YBiT 版 EAST の各小項目に、自治体ホームページを評価するための具体的なチェック項目を対応させて設けた。例えば、E-2「面倒な要因の減少」は「スマホでの操作がしやすいか」を対応させて、住民の自律的な意思決定のもとで適切にワクチン接種を促進できているかを評価する。

三点目は、「Easy」「Attractive」「Social」「Timely」という既存の 4 項目に、若年層の視点でチェックするための「Young」の項目を加えた。デルタ株のような変異株の出現によって若年層の重症化リスクが高まる可能性もあること、若年層が重症化しやすくなれば、病床の逼迫から医療提供体制に悪影響を及ぼす可能性があることから、若年層が接種する社会的意義は大きい。また、ワクチンは発症予防効果を持つものだが、一定程度の感染予防効果も見込めることから、若年層の接種より同居する高齢者や基礎疾患を持つ家族への感染を防ぐことができる。さらに、特に大学生はパンデミックの影響で対面形式ではなくオンライン配信の授業がほとんどになり、本来の学校生活が制限されていたため、若者の接種率が向上することにより対面形式の授業の機会が増えるという便益がある。

・「EASTY」の構成



「EASTY」は、上図のように、EAST と Young から構成される。EAST と Young には、それぞれ具体的なチェック項目を設けた。各項目に 1 点を配分したので、合計で 22 点となっている。

Easy	E-2	スマホでの操作がしやすいか
		ワクチンのページに入る際に手間がかからない仕様になっているか
		自分の知りたい情報を容易に知ることが出来るか
	E-3	難しい言葉で説明していないか
		図や表やイラストを用いているか
		視線誘導を意識した作りになっているか
		予約の手順がわかりやすいか
		接種の流れがわかりやすいか

※E-1「デフォルト機能の活用」は自治体ホームページの評価に適さないとして削除した。

E-2 には「スマホでの操作がしやすいか」「ワクチンのページに入る際に手間がかからない仕様になっているか」「自分の知りたい情報を容易に知ることができるか」という 3 項目を設けた。一つ目は、使用することの多いスマートフォンでホームページを見たときにパソコン用のページのままでは見づらく、情報を得るのに時間がかかるからである。二つ目は、ワクチンを予約する際に手間がかかると接種そのものを先延ばししてしまうからである。三つ目は、知りたい情報がすぐに見つけられないとストレスがかかるからである。二つ目と三つ目は、手間がかかるという点で共通しており、情報を得るための面倒な要因を減少することで接種そのものの先延ばしを防ぐことができる。

E-3 には、「難しい言葉で説明していないか」「図や表やイラストを用いているか」「視線誘導を意識した作りになっているか」「予約の手順がわかりやすいか」「接種の流れがわかりやすいか」という 5 項目を設けた。一つ目は、難しい言葉でなく簡単な言葉を使用することにより、言葉の意味を調べる手間が省け、理解に困る人を減らすことが出来るからである。

二つ目は、図や表やイラストを用いる方が視覚的にも理解しやすくなるからである。三つ目は、視線誘導を意識したホームページの方が情報を探すための手間が減り、内容を理解しやすくなるからである。四つ目と五つ目は、新型コロナ・ワクチンを接種するときに必ず行う作業であるため、手順や流れの分かりやすさが重要であると考えたからである。

Attractive	A-1	ワクチンの効果、メリットが記載されているか
	A-2	無料であることを強調しているか

A-1には「ワクチンの効果、メリットは記載されているか」という項目を設けた。理由は、ワクチン接種の効果やメリットの情報が記載されていることによって、ワクチン接種に対してポジティブなイメージを持つことができるからである。

A-2には「無料であることを強調しているか」という項目を設けた。理由は、この金銭的インセンティブを目立たせることで、無料で接種を受けられることのお得感を実感できるからである。

Social	S-1	接種率や接種人数の情報がわかりやすいか
		社会規範を意識した言葉選びになっているか
		様々な理由でワクチン接種できない人が差別されないようなメッセージを記載しているか
	S-2	SNS を利用しているか

※S-3「周囲へ公言させる」は自治体ホームページの評価に適さないとして削除

S-1には「接種率や接種人数の情報がわかりやすいか」「社会規範を意識した言葉選びになっているか」「様々な理由でワクチン接種できない人が差別されないようなメッセージを記載しているか」という3項目を設けた。一つ目は、接種率や接種人数の情報を示すことで社会規範が形成されて、ワクチン接種を積極的に検討しやすくなるからである。二つ目は、「新型コロナ・ワクチンは、あなたの大切な人を守り、医療機関の負担を減らすための重要な手段になります」というような利他的なメッセージがあることにより、ワクチン接種を前向きに検討してもらえるからである。三つ目は、接種を受けられない人への差別を防ぐために必要であると考えたからである。

S-2には「SNS を利用しているか」という項目を設けた。これは、スマートフォン利用者の多さから、SNS を活用することで新型コロナ・ワクチンについての情報をより得やすくなると考えたためである。

Timely	T-1	新型コロナウイルスの変異株 関する情報更新をしているか
	T-2	リマインド機能は設定されているか
	T-3	副反応などの情報と対処法が記載されているか
		SNS で出回っているワクチンの情報に対する対策がされているか

T-1 には「新型コロナウイルスの変異株に関する情報更新をしているか」という項目を設けた。頻繁な情報更新は、タイムリーな情報提供が行われていることの裏付けになる。更新頻度基準の曖昧化を防ぐために、変異株の情報があることを具体的な条件とした。

T-2 には「リマインド機能は設定されているか」という項目を設けた。これは、接種日時を忘れることによる無断キャンセルを防ぐためである。

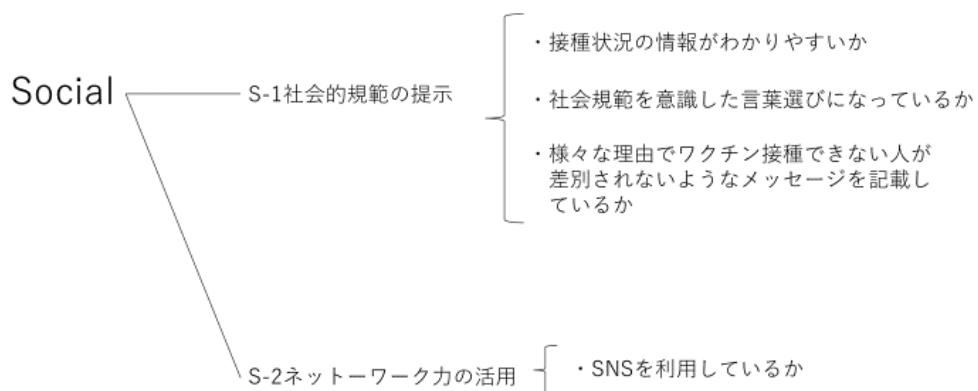
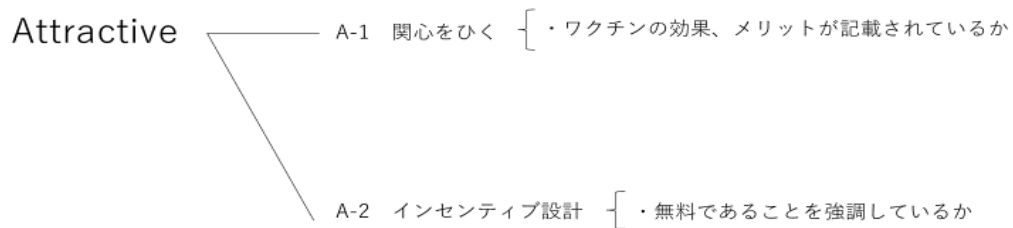
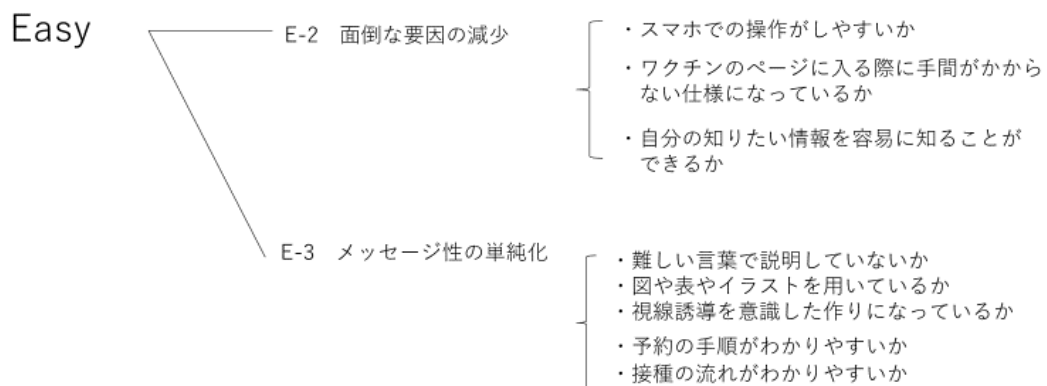
T-3 には「副反応などの情報と対処法が記載されているか」「SNS で出回っているワクチンの情報に対する対策がされているか」という 2 項目を設けた。これらは、SNS 等で発信されている誤情報を払拭し、安心させるためである。

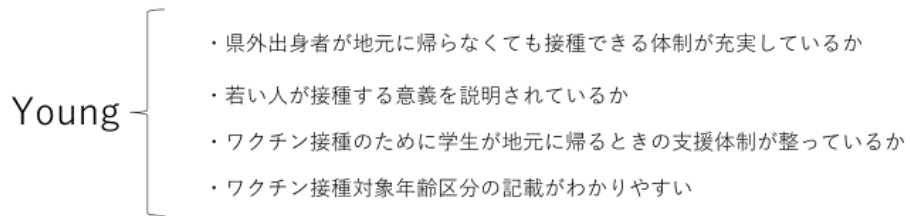
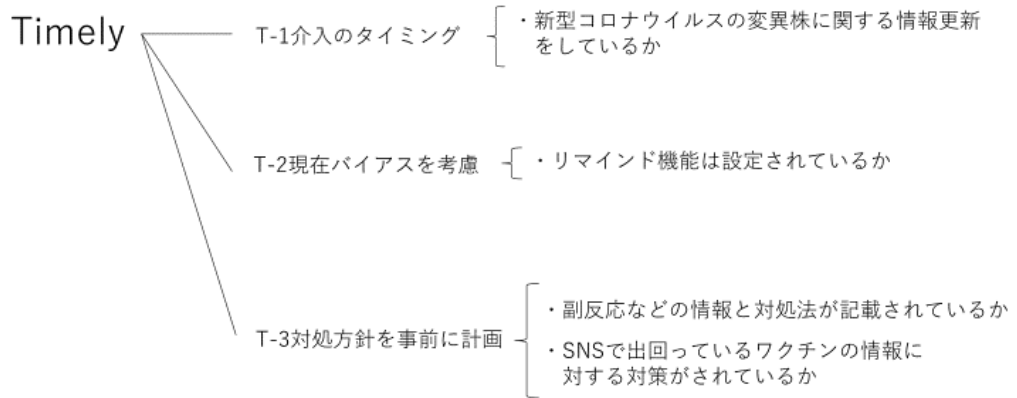
Young	県外出身者が地元に戻らなくても接種できる体制が充実しているか
	若い人が接種する意義を説明されているか
	ワクチン接種のために学生が地元に戻るときの支援体制が整っているか
	ワクチン接種対象年齢区分記載がわかりやすいか

新しく追加した Young には、「県外出身者が地元に戻らなくても接種できる体制が充実しているか」「若い人が接種する意義を説明されているか」「ワクチン接種のために学生が地元に戻るときの支援体制が整っているか」「ワクチン接種対象年齢区分の記載がわかりやすいか」という 4 項目を設けた。

一つ目と三つ目は、住民票所在地と異なる自治体に居住している大学生に焦点を当てており、本人希望の自治体で接種しやすいことが接種促進において重要と考えたためである。二つ目は、致死率の低い若年層でワクチンの持つ発症予防効果が軽視されることを懸念し、重症化や周囲への感染を防ぐことができるという接種の意義を説明することが必要であると考えたからである。四つ目は、ワクチン接種の予約受付の対象年齢に関する説明が分かりづらいと、自分の対象時期を見逃してしまう可能性があるからである。

下記には、EASTY の構成図を示した。





1.2.2. 「19歳の考える19の項目」

・概要

我々は、新型コロナ・ワクチンの接種に関する情報提供について、東北六県の地方自治体がホームページをどのように活用しているかを評価するために、「19歳の考える19の項目」というもう一つのチェックリストを作成した。我々のような若者世代の考え方や価値観が反映されていることを示すために、上記のように名付けた。

チェックリストは、英国の Local Government Association（以下 LGA）が自治体向けに作成したフレームワーク「Applying behavioural insights to improve COVID vaccination uptake: a guide for councils」の「2.1. Design your behavioural solution」に示された、ワクチン接種を促進するための12の手法（2022）を、日本国内の自治体のホームページ向けに再構成した内容になっている。

・英国 LGA の12の手法の紹介

英国の LGA が考案したワクチン接種率向上のための12の手法は、「ワクチン接種を意図してもらうための手法」の8項目、「意図したことを行動に繋げるための手法」の4項目、計12項目から構成されている。以下の表に、その12項目を示した。

以下の説明は、NPO 法人 PolicyGarage 作成の資料（2021）に基づいて執筆している。

ワクチン接種を意図してもらうための手法	
No.	内容
1	簡潔かつ明確なメッセージを維持する。 -短い方がより伝わりやすく、記憶に残り、信頼されやすい。
2	新型コロナウイルスに感染することによる深刻さ、リスクを伝える。 -リスクを具体的に知らせ、ワクチン接種がそのリスクを低減させることを伝える。
3	ワクチンの効果と安全について、バランスの取れた情報提供をする。 -効果や安全性とともに、副反応についても透明性のある情報を伝えることが信頼につながる。
4	ワクチン接種による社会的な便益を強調する。 -集団免疫の獲得や健康リスクの高い人たち、医療従事者を守るためなど。
5	社会規範を目立たせる。 -接種した人の数や接種を意図する人の増加傾向を示す。
6	ロールモデルになる人物を活用する。 -自分達に似た人たちが既にワクチン摂取した場合、接種の動向が高まる。

7	<p>ポジティブなメッセージを送る。</p> <p>-ポジティブなメッセージは広く共有されやすい。</p>
8	<p>新型コロナウイルス感染症に関する過去の対策と紐づけてワクチン摂取の必要性を示す。</p> <p>-過去のコロナ対策（マスク着用、外出自粛、社会的距離等）の延長線上と見せることで一貫性を持たせる。</p>

「ワクチン接種を意図してもらうための手法」として、ワクチン接種を検討するのに有効な情報とその情報の提供手段に関する8項目が設けられている。

ワクチンに関する効果や安全性に関する情報をバランスよく提供することや、新型コロナウイルスの感染リスクを伝えることは、ワクチン接種による便益を強調することになる。その中で、情報負荷の軽減を図るために、内容を簡潔に伝える工夫も重要視されている。

また、社会規範を目立たせることやロールモデルを活用すること、ポジティブなメッセージを送ることなど、接種の意向を高める取り組みがなされているかどうかをチェックする項目がある。ロールモデルの活用は、自分たちに似た人がワクチン接種を受けた場合に接種の意向を強化する効果があると考えられる。ポジティブなメッセージは印象的であることから記憶に残りやすく、広く共有される可能性が高くなる。そのため、これらの項目は接種意図の形成において重要な役割を果たす。

意図したことを行動に繋げるための手法	
No.	内容
9	<p>ワクチン接種の計画を立てることを支援する。</p> <p>-必要なステップを明示し、計画を立ててもらうことは行動へのコミットメントに繋がる。</p>
10	<p>ワクチン接種について、リマインドする。</p> <p>-適切な広報チャネルを使った、信頼できる相手からの具体的な動作指示のリマインドが効果的。</p>
11	<p>行動を妨げる要因を取り除く。</p> <p>-接種会場の把握や移動手段を含め、ワクチン接種に係る行動を簡単にすることが重要。</p>
12	<p>社会的ネットワークを活用する。</p> <p>-既にワクチン接種した人からの情報提供、接種に向けたサポートが効果的。</p>

次に、「意図したことを行動に繋げるための手法」として、ワクチン接種を決断した人が確実に接種できるようにするための支援に関する4項目が設けられている。

ワクチン接種の具体的な計画を立てることは、ワクチン接種へのコミットメントの機能を持つ。接種に必要なステップを明示することは、その接種計画の作成を促す。つまり、ワ

ワクチン接種の実行支援には、必要なステップを明示し、接種計画の作成を促すことが重要である。接種に関する具体的な動作指示のリマインドは、人々の失念や先延ばしを防いで接種を実行しやすくなり、無断キャンセルの減少に繋がる。接種までに必要な行動を簡単にすることは、接種実行にかかる情報負荷や行動負荷を軽減する。既に接種を受けた人が情報提供したり接種のサポートをしたりするような社会的ネットワークの活用もまた、周囲の人のワクチン接種の実行を手助けすると考えられる。

・英国 LGA の 12 の手法の特徴

我々は独自チェックリストを作成するための準備として、LGA の 12 の手法を分析する中で、この手法には 3 つの特徴があると考えた。一つ目は「ワクチン接種が新型コロナウイルス対策として有効であると示し、推奨していること」、二つ目は「ワクチン接種の意向を高めること」、三つ目は「ワクチン接種の手続きを簡単にし、接種者の負担を軽減すること」である。

一つ目の特徴である「ワクチン接種が新型コロナウイルス対策として有効であると示し、推奨していること」は、No.2「新型コロナウイルスに感染することによる深刻さ、リスクを伝える」と No.3「ワクチンの効果と安全について、バランスの取れた情報提供をする」の 2 項目に関するものである。No.2 は、新型コロナウイルスに感染することの深刻さ、リスクを具体的に伝えることを取り上げ、No.3 は、副反応があること、ワクチンの効果や安全性の両方を述べることで情報の信憑性を高めることを取り上げている。新型コロナウイルスに感染することのリスクを伝え、ワクチンが発症や重症化、感染へのリスク軽減に有効であると説明することは、何かを失うことを回避したいと感じる人々の損失回避性に着目した項目になっていると言える。

二つ目の特徴である「ワクチン接種の意向を高めること」は、No.5「社会規範を目立たせる」と No.7「ポジティブなメッセージを送る」の二項目に関するものである。接種人数や接種を意図する人の増加傾向を示すことは、ワクチン接種を受けるべきという社会規範を形成し、目立たせる。人々は社会規範に従って行動したいと感じる傾向を持つため、社会の接種率向上に繋がると考えられる。また、ポジティブなメッセージは広く人々の間で共有されやすい。そのため、ワクチン接種に前向きになるようなメッセージを送ることはワクチン接種に対して懸念を持つ人にとって効果的だと考えられる。

三つ目の特徴である「ワクチン接種の手続きを簡単にし、接種者の負担を軽減すること」は、No.9「ワクチン接種の計画を立てることを支援する」と No.12「社会的ネットワークを活用する」の二項目に関するものである。ワクチン接種の計画を立てることは、接種実行を手助けするコミットメントとして機能する。その中で、ワクチン接種へのステップが明確に提示されていると、接種計画の作成を促進させるのに有効である。また、人々は関わりがある他者の説明を重要視する傾向を持つため、例えば既にワクチン接種を終えた知人が情報を提供するというような社会的ネットワークの活用は社会の接種率向上に効果的だろう。

これら 2 つは、意図したことを行動に繋げるための手法に関する項目であった。ワクチン接種の情報を提供することと同じように、接種を決めた人へのサポートを充実させることは、社会の接種率向上に繋がる。

・独自チェックリスト「19歳の考える19の項目」の作成方針

我々は、先述の 3 つの特徴を参考にして、日本国内の地方自治体のホームページを評価するためのチェックリストとして「19歳の考える19の項目」を作成した。英国 LGA の 12 の手法はホームページを評価する目的で作られていないため、その 3 つの特徴に相当する観点に加えて 1 つの独自観点を置き、それらの観点に対応する具体的なチェック項目を設けた。

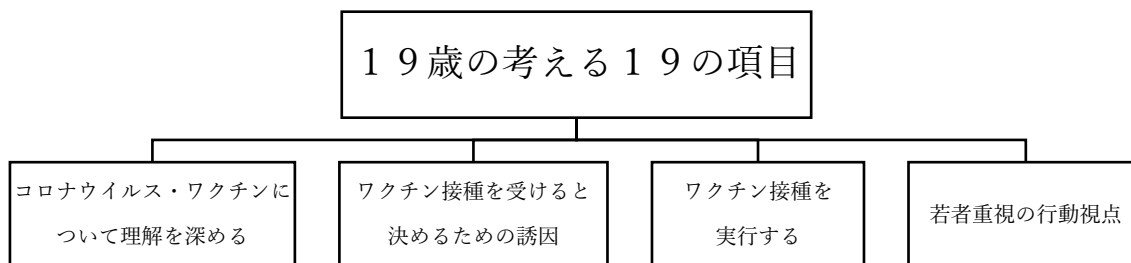
一つ目の特徴である「ワクチン接種がコロナウイルス対策として有効であると示し、推奨していること」に相当するものとして、「コロナウイルス・ワクチンについて理解を深める」という観点を置いた。この観点は、新型コロナウイルスとそのワクチンについて理解しやすく、ワクチン接種の効果や必要性を感じられるかを評価するものであり、情報が十分かどうかを評価する情報部門と、情報の視覚的な分かりやすさを評価するデザイン部門の二つに分かれている。

二つ目の特徴である「ワクチン接種の意向を高める」に相当するものとして、「ワクチン接種を受けると決めるための誘因」という観点を置いた。この観点は、ワクチン接種が無料であることを伝えることや接種状況を示すことなど、ワクチン接種を迷っている人に対して接種決定の後押しをする内容がここに含まれる。

三つ目の特徴である「ワクチン接種の手続きを簡単にし、接種者の負担を軽減すること」に相当するものとして、「ワクチン接種を実行する」という観点を置いた。この観点は、ワクチン接種を決断した人が、予約から接種までの行程を確実にこなせるようになっているかを評価する。

最後に、我々独自の観点として「若者重視の行動視点」を追加した。この観点は、若年層に合わせた情報発信がなされているかを評価する。観点に追加した理由は、若年層の接種率が相対的に低かったことから、若年層の接種を促すホームページになっていることが社会的に重要だと考えたからである。また、我々自身が若者世代であることから、我々の考え方や価値観が活かせるとも考えた。

・「19歳の考える19の項目」の構成



「19歳の考える19の項目」は5の観点に基づく19の大項目があり、大項目ごとの具体的なチェック項目として、43の小項目がある。小項目にはそれぞれ1~5点が配分されており、合計100点となっている。小項目の採点は採点者が基準を十分に理解した上で、個人の総合的な判断として決定する。

それぞれの大項目の目的・役割・基準は下記の表の通りであり、「目的」は大項目がワクチン接種をどのようなメカニズムで推進するか、「役割」は大項目が行動経済学のナッジの知見からどのような役割を持っているか、「基準」は大項目内の小項目を採点する際に何を意識して評価するか、を表している。

No.	目的・役割・基準
1	<p>トップページから新型コロナウイルス関連ページにアクセスしやすいか。</p> <p>目的：新型コロナウイルス関連情報を発見しやすくし、閲覧を促す。</p> <p>役割：情報負荷の軽減</p> <p>基準：配置は良いか、強調されているか、必要な情報にアクセスできるか</p>
2	<p>様々な人がワクチンの予約をしやすい状況になっているか。</p> <p>目的：ワクチン予約手段を充実させ、利用者自身に合う予約方法を選ばせる。</p> <p>役割：行動負荷の軽減</p> <p>基準：各ワクチン予約方法があるか、必要事項が明確か</p>
3	<p>ワクチン接種における予約の過程が分かりやすいか。</p> <p>目的：ワクチン予約過程を明確にし、予約方法を理解しやすくする。</p> <p>役割：情報負荷の軽減</p> <p>基準：指示が明確か、順序に沿って説明されているか、図表が活用されているか</p>
4	<p>ワクチン接種における当日の過程が分かりやすいか。</p> <p>目的：ワクチン接種の過程を明確にし、接種の不安を軽減させる。</p> <p>役割：情報負荷の軽減</p> <p>基準：必要な情報があるか、順序に沿って説明されているか</p>

5	<p>ワクチン接種が無料であることを強調しているか。</p> <p>目的：ワクチン接種が無料であることを意識させる。</p> <p>役割：インセンティブの設計</p> <p>基準：無料を意識させる表現になっているか、強調されているか</p>
6	<p>ワクチン接種におけるメリットとデメリットが明確か。</p> <p>目的：ワクチン情報を明確にし、恩恵を伝えつつ不安を軽減させる。</p> <p>役割：インセンティブの設計</p> <p>基準：必要な情報があるか、恩恵を感じやすく不安を感じにくい表現か</p>
7	<p>ワクチン接種についてリマインドがあるか。</p> <p>目的：ワクチン接種日時を意識させ、当日キャンセルを減らす。</p> <p>役割：コミットメント手段の提供</p> <p>基準：リマインドがあるか、リマインドが初期設定になっているか</p>
8	<p>社会の規範を強調しているか。</p> <p>目的：ワクチン接種状況を伝え、社会規範として意識させる。</p> <p>役割：社会規範の利用</p> <p>基準：接種者の割合を伝えているか、社会規範を意識させる表現になっているか</p>
9	<p>新型コロナウイルスに感染することによる影響を伝えているか。</p> <p>目的：新型コロナウイルスの症状と周囲への影響を伝え、感染による損失を意識させる。</p> <p>役割：損失回避性の利用・社会規範の利用</p> <p>基準：症状が明確か、周囲への影響とその対策があるか</p>
10	<p>感染者数が適切にまとめられているか。</p> <p>目的：新型コロナウイルス感染の現状を伝え、感染による損失を意識させる。</p> <p>役割：損失回避性の利用</p> <p>基準：情報が更新されているか、図表が活用されているか、一覧性があるか</p>
11	<p>ポジティブなメッセージを表記しているか。</p> <p>目的：ポジティブで明瞭なメッセージを発信し、ワクチンに良い印象を持たせる。</p> <p>役割：利用可能性ヒューリスティックの利用</p> <p>基準：良い印象を持たせる表現になっているか、内容が直感的に分かりやすいか</p>
12	<p>インフルエンサーを活用しているか。</p> <p>目的：インフルエンサーをロールモデルとして活用し、閲覧機会を増加させる。</p> <p>役割：利用可能性ヒューリスティックの利用</p> <p>基準：知名度があるか、ロールモデルとして有用か</p>
13	<p>Q&A に関するページが適切に利用してあるか。</p> <p>目的：疑問を解消し、不安を軽減させる。</p> <p>役割：情報負荷の軽減</p> <p>基準：各 Q&A があるか、住民の不安を捉えられているか</p>

14	<p>情報が簡潔かつ明確にまとめられているか。</p> <p>目的：情報を適切にまとめ、目的の情報を発見しやすくする</p> <p>役割：情報負荷の軽減</p> <p>基準：理解が容易か、ページ内で目的の情報を探しやすいか、情報量は適切か</p>
15	<p>見やすいデザインになっているか</p> <p>目的：見やすいデザインにし、内容を理解しやすくする。</p> <p>役割：情報負荷の軽減</p> <p>基準：視覚的に見やすいか、重要な情報が強調されているか</p>
16	<p>スマホでの操作がしやすいか。</p> <p>目的：スマホでの操作を簡単にし、スマホ利用での閲覧を促す。</p> <p>役割：行動負荷の軽減</p> <p>基準：サイズがスマホ対応か、重要な情報が強調されているか、リンクが押しやすいか</p>
17	<p>情報更新が適切にまとめられてあるか。</p> <p>目的：情報更新をまとめ、目的の情報を発見しやすくする。</p> <p>役割：情報負荷の軽減</p> <p>基準：更新日時が書いてあるか、コロナウイルス関連の新着情報がまとめられているか</p>
18	<p>見出しがわかりやすくまとめられてあり、情報へのアクセスがしやすいか。</p> <p>目的：見出しを適切にし、目的の情報を発見しやすくする。</p> <p>役割：情報負荷の軽減</p> <p>基準：押したいリンクになっているか、重要な情報の見出しが強調されているか</p>
19	<p>自治体が SNS を利用して、情報を発信しているか。</p> <p>目的：SNS の活用で自治体の情報に関心を持たせ、閲覧機会を増加させる。</p> <p>役割：タイムリーな情報提供</p> <p>基準：SNS を活用しているか、ワクチン関連情報を発信しているか</p>

1.3. チェックリストによる採点手続き

・採点の日時と対象

2021年10月26日～11月16日にかけて、東北六県（青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島）に227ある地方自治体のホームページを採点対象とした。

・採点者の分け方

8名の学生の内、4名が「EASTY」を使用した採点を担当し、残りの4名が「19歳の考える19の項目」を使用した採点を担当した。4名1組のグループの中で、下記の表のように6通りの2人組の組合せを作成して、採点者として各地方自治体に割り当てた。つまり、1つの自治体に対して、「EASTY」の採点者2名と「19歳の考える19の項目」の採点者2名の計4名が割り当てられたことになる。これらの工夫は特定の採点者の採点傾向が結果に及ぼす影響を緩和することを目的にしている。

①	②
①	③
①	④
②	③
②	④
③	④

・採点時期とアーカイブ・サイトの参照基準

日本では、新型コロナ・ワクチンの医療従事者への接種が2021年2月に開始されてから接種対象が広がり、高齢者や基礎疾患を有する人、一般の人々への接種が順次行われるようになった。2021年10月～11月は若年層を含めて一般向けの1回目・2回目接種の最終局面の時期に相当しており、ホームページの掲載情報が自治体それぞれでより選別され、洗練されたものになっていたと考えられる。

一方で、一部の自治体では、ホームページでの新規接種の案内を終了していたため、採点時点でワクチンに関する情報を評価することが困難な場合があった。その場合は、国立国会図書館のインターネット資料保存事業 (<https://warp.da.ndl.go.jp/>) で保存されている自治体のアーカイブ・サイトを参照した。アーカイブの登録日は自治体によって異なるが、概ね7月上旬であった。

1.3.1. 「EASTY」の採点例

「EASTY」の合計点ランキングが第1位となった地方自治体は、青森県十和田市だった。下記は、十和田市の採点表である。次ページからは、具体的な採点手続きを紹介している。次ページの枠線（黒色の点線）は、特に評価対象となった部分を示している。

〈採点結果〉

		チェック内容	採点者1 点数	採点者2 点数
E	E-2	スマホでの操作がしやすいか	1	1
		ワクチンのページに入る際に手間がかからない仕様になっているか	1	1
		自分の知りたい情報を容易に知ることが出来るか	1	1
	E-3	難しい言葉で説明していないか	1	1
		図や表やイラストを用いているか	0	0
		視線誘導を意識した作りになっているか	1	1
		予約の手順がわかりやすいか	1	1
	接種の流れがわかりやすいか	1	1	
A	A-1	ワクチンの効果、メリットが記載されているか	1	1
	A-2	無料であることを強調しているか	1	0
S	S-1	接種率や接種人数の情報がわかりやすいか	1	1
		社会規範を意識した言葉選びになっているか	1	1
		様々な理由でワクチン接種できない人が差別されないようなメッセージを記載しているか	1	1
	S-2	SNS を利用しているか	1	1
T	T-1	新型コロナウイルスの変異株に関する情報更新をしているか	1	1
	T-2	リマインド機能は設定されているか	0	0
	T-3	副反応などの情報と対処法が記載されているか	1	1
		SNS で出回っているワクチンの情報に対する対策がされているか	0	0
Y		県外出身者が地元に戻らなくても接種できる体制が充実しているか	1	1
		若い人が接種する意義を説明されているか	0	0
		ワクチン接種のために学生が地元に戻るときの支援体制が整っているか	0	0
		ワクチン接種対象年齢区分の記載がわかりやすいか	1	1
合計			17	16

〈採点例1〉



図：十和田市のホームページのトップページ（2021）

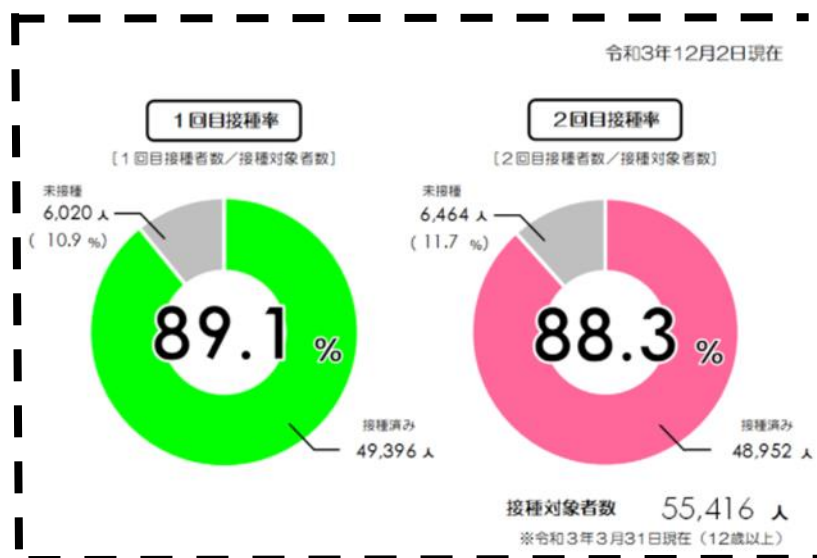
上図の、十和田市のトップページの画像の『新型コロナウイルス感染症対策についてはこちら』の黄色いバナーが、Easy の項目の「ワクチンのページに入る際に手間がかからない仕様になっているか」の評価対象となった。

E-2	面倒な要因の減少 — 行動に必要な労力を極力減らしているか
E-2	ワクチンのページに入る際に手間がかからない仕様になっているか

トップページの目立つ場所や色、大きさでこのリンクが設置されており、このリンクをクリックすることによってワクチン接種についてのページに飛ぶことができるため、手間がかからない仕様になっていた。そのため、二人の採点者がともに加点している。

〈採点例2〉

十和田市のワクチン接種状況



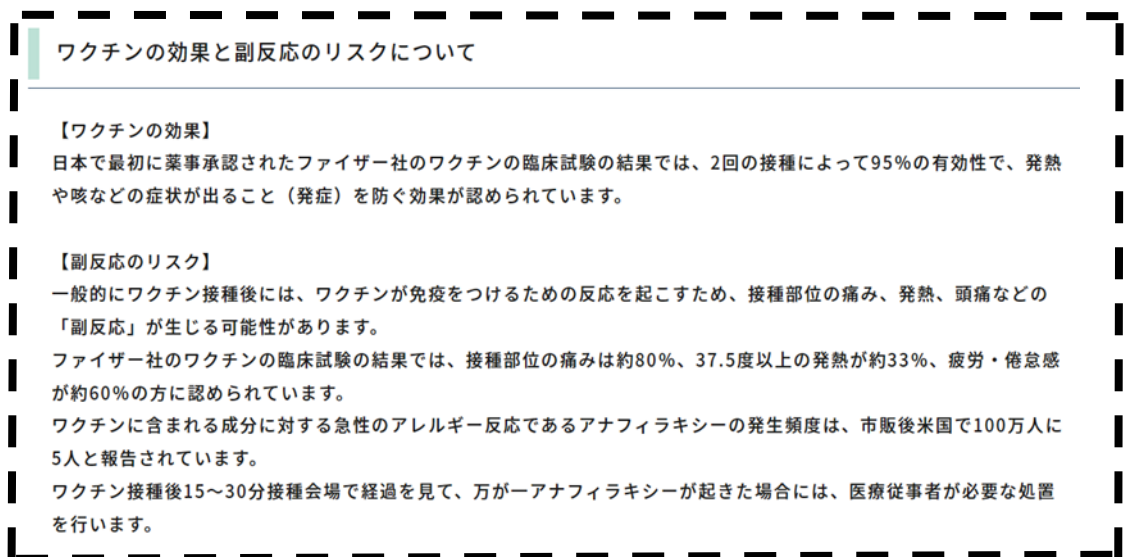
図：十和田市のワクチン接種状況（2021）

上図の十和田市のワクチン接種状況についてのページが、Socialの項目の「接種率や接種人数の情報がわかりやすいか」の評価対象となった。

S-1	社会規範の提示 ー社会的規範（価値観、行動、期待等）に訴えかけているか
S-1	接種率や接種人数の情報がわかりやすいか

画像の接種率を説明する円グラフから、1回目接種率と2回目接種率のそれぞれが何%かを一目見ただけで理解することができる。また、接種済み人数も併せて紹介されており、接種者の規模感が実感しやすくなっている。周囲の人がどの程度接種を受けているかをすぐに認識することができ、周囲の人の行動を参考にしたい閲覧者が自分自身のワクチン接種を積極的に検討しやすくなると考えられるため、二人の採点者がともに加点している。

〈採点例3〉



図：十和田市のワクチンの効果と副反応リスクについてのページ（2021）

上図の十和田市のワクチンの効果と副反応リスクについてのページが、Attractive の項目の「ワクチンの効果、メリットが記載されているか」、Timely の項目の「副反応などの情報と対処法が記載されているか」の評価対象となった。

A-1	関心をひく —デザイン良く、利益・コストを際立て、感情・人間関係に訴えているか
A-1	ワクチンの効果、メリットが記載されているか

T-3	対処方針を事前に計画 —特定のイベントに直面した際の対応方針を計画するよう促したか
T-3	副反応などの情報と対処法が記載されているか

ワクチンの効果は、数字を使って簡潔にまとめられている。また、副反応の情報についてもどのような副反応が起こるのか、その症状はどの程度発生するかを臨床試験の結果を踏まえて説明されているため、二人の採点者がともに加点している。

※2021年10月時点の十和田市のホームページは、下記 URL より全体が閲覧できる。
<https://warp.da.ndl.go.jp/collections/instance/info:ndljp/pid/11740953/www.city.towada.lg.jp/>

1.3.2. 「19歳の考える19の項目」の採点例

「19歳の考える19の項目」の合計点ランキングが第1位となった地方自治体は、岩手県宮古市だった。下記は、宮古市の採点表である。次ページからは、大項目①・②・⑧の具体的な採点手続きを紹介している。次ページの枠線（黄緑色）は、評価対象となった部分を示している。

〈採点者1〉

観点	項目別点数					計	
コロナウイルス・ワクチンについて 理解を深める	⑥ ⁴ / ₄	⑨ ² / ₆	⑩ ² / ₅	⑬ ⁴ / ₅	⑰ ⁰ / ₄	12/24	63/100
コロナウイルス・ワクチンについて 理解を深める（デザイン部門）	① ⁶ / ₆	⑭ ² / ₄	⑮ ⁵ / ₈	⑱ ⁴ / ₆		17/24	
ワクチン接種を受けると 決めるための誘因	⑤ ³ / ₃	⑧ ⁴ / ₅	⑪ ² / ₄			9/12	
ワクチン接種を実行する	② ⁶ / ₈	③ ⁴ / ₅	④ ² / ₆	⑦ ⁰ / ₄		12/23	
若者重視の行動視点	⑫ ⁰ / ₄	⑯ ⁵ / ₅	⑲ ⁸ / ₈			13/17	

〈採点者2〉

観点	項目別点数					計	
コロナウイルス・ワクチンについて 理解を深める	⑥ ² / ₄	⑨ ⁴ / ₆	⑩ ⁴ / ₅	⑬ ³ / ₅	⑰ ⁴ / ₄	17/24	77/100
コロナウイルス・ワクチンについて 理解を深める（デザイン部門）	① ⁶ / ₆	⑭ ⁴ / ₄	⑮ ⁸ / ₈	⑱ ⁵ / ₆		23/24	
ワクチン接種を受けると 決めるための誘因	⑤ ³ / ₃	⑧ ⁴ / ₅	⑪ ⁴ / ₄			11/12	
ワクチン接種を実行する	② ⁶ / ₈	③ ⁴ / ₅	④ ⁴ / ₆	⑦ ⁰ / ₄		14/23	
若者重視の行動視点	⑫ ⁰ / ₄	⑯ ⁴ / ₅	⑲ ⁸ / ₈			12/17	

〈採点例1〉



図：宮古市のトップページ（2021）

上図の宮古市のトップページ内のバナーが、大項目①「トップページからコロナウイルス関連ページにアクセスしやすいか」の評価対象となった。

1	トップページからコロナウイルス関連ページにアクセスしやすいか。 目的：新型コロナウイルス関連情報を発見しやすくし、閲覧を促す。 役割：情報負荷の軽減 基準：配置は良いか、強調されているか、必要な情報にアクセスできるか				
1	トップページからコロナウイルス関連ページにアクセスしやすいか。				
	☒目につきやすい場所にコロナウイルス感染症特設ページのリンクがあるか。	3/3	6/6	3/3	6/6
	☒目につきやすい場所にワクチン接種関連ページのリンクがあるか。	3/3		3/3	

宮古市のトップページには感染症特設ページのリンクは無いが、感染拡大防止ポスターや市民・事業者向け感染症対策ページ等があることでトップページ自体が特設ページの役割を果たしている。そのため、「目につきやすい場所にコロナウイルス感染症特設ページのリンクがあるか」を満たしていると判断され、両方の採点者が最高点をつけている。

ワクチン接種関連情報としては、接種のお知らせ・接種予約サイト・接種率・接種予約手伝い・Q&Aのリンクがある。Q&A以外の4つはページ上部の目立つ位置にあり、その中でも接種のお知らせと接種予約サイトは赤枠で目立っている。「目につきやすい場所にワクチン接種関連ページのリンクがあるか」も、両方の採点者が最高点をつけている。

〈採点例2〉

新型コロナワクチン接種の予約方法

ワクチン接種を受けるためには、予約が必要です。
※予約受付は接種券が届いた方が対象です。

予約の方法は、電話予約とインターネット予約の2種類です。

- 電話予約
 下記の予約センターに電話をしてください。

宮古市新型コロナワクチン接種【予約・相談】センター
 ☎ **019-606-8053**
 午前9時から午後6時まで（土・日・祝日・年末年始を除く）

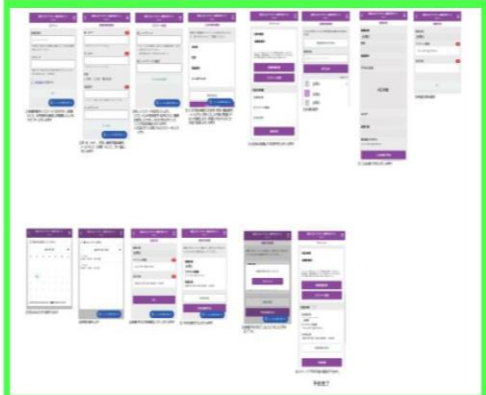
- インターネット予約
 下記のリンク先サイトから予約ができます。

[宮古市新型コロナワクチン接種予約サイト（こちらをクリック）](#)

- 予約サイトでの手順は以下のとおりです。
 実際の予約サイトの画面は、枠の色が緑色です。

※新しく設定したパスワードはメモなどして忘れないようにしてください。

（画像をクリックすると、拡大表示されます。）



図：宮古市の接種予約手順の説明（2021）

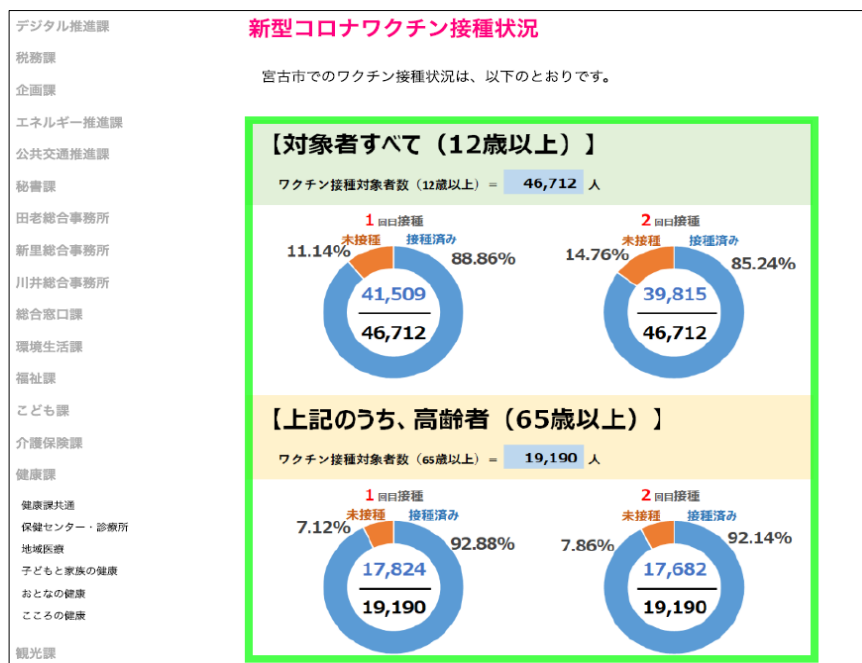
上図の宮古市の接種予約手順の説明が、大項目③「ワクチン接種における予約の過程が分かりやすいか」の評価対象となった。

3	<p>ワクチン接種における予約の過程が分かりやすいか。</p> <p>目的：ワクチン予約過程を明確にし、予約方法を理解しやすくする。</p> <p>役割：情報負荷の軽減</p> <p>基準：指示が明確か、順序に沿っているか、図表が活用されているか</p>				
3	<p>ワクチン接種における予約の過程が分かりやすいか。</p> <p>└─順序立てて説明してあるか。</p> <p>└─図や表、記号を用いているか。</p>	2/3	4/5	2/3	4/5
		2/2		2/2	

インターネット予約のためのワクチン接種予約サイトの利用方法が、画像を使って説明されている。画像内には「⑦『この会場で予約』ボタンを押す」のような具体的な動作指示が表示画面に併記されており、順序立てられた分かりやすい説明になっていたことから、「図や表、記号を用いているか」で両方の採点者が最高点をつけている。

一方で、電話予約の利用方法は予約センターの電話番号と利用可能時間の情報しか記載されておらず、接種券の準備の指示や予約までの過程の説明については改良の余地がまだあることから、「順序立てて説明してあるか」については部分点になっている。

〈採点例 3〉



図：宮古市のワクチン接種状況（2021）

上図の宮古市のワクチン接種状況を示す部分が、大項目⑧「社会の規範を強調しているか」の評価対象となった。

8	社会の規範を強調しているか。 目的：ワクチン接種を多くの方がしていると伝え、社会規範として意識させる。 役割：社会規範の利用 基準：接種者の割合を伝えているか、社会規範を意識させる表現になっているか				
8	社会の規範を強調しているか。 ↳自治体の接種状況が適切にまとめられているか。 ↳ワクチン接種を促しているか。	3/3	4/5	3/3	4/5
		1/2		1/2	

宮古市のワクチン接種状況は、年齢層と接種回数で分けられた4つのドーナツグラフで示されている。グラフからは対象者数に占める接種人数、輪の部分では接種済みと未接種の割合が読み取れ、対象者数・接種人数・接種割合が一目で理解できることから、「自治体の接種状況が適切にまとめられているか」で両採点者が最高点をつけている。

接種者割合を示す%表記やグラフの配色は、ワクチン接種が社会規範であると感じさせやすい表現である。しかし、ワクチン接種を強く促す直接的な表現は無いことから、「ワクチン接種を促しているか」については部分点になっている。一方で、ワクチン接種を受けられない人にも配慮した表現になっていると解釈することができる。

※2021年10月時点の宮古市のホームページは、下記URLより全体が閲覧できる。

<https://warp.da.ndl.go.jp/collections/instance/info:ndljp/pid/11777448/www.city.miyako.iwate.jp/>